



やなぎさわ たかし
柳澤 隆

生年月 1983年10月北海道生まれ
最終学歴 2009年法政大学大学院工
学研究科建設工学専攻修了
業務経歴 2009年㈱竹中工務店入社
現在、名古屋支店設計部

●担当した主なプロジェクト

- 2011年 ココチホテル
- 2012年 ナゴヤドーム オープンデッキ
- 2012年 デンソー本社本館 役員エリア
- 2014年 熊野油脂本社ビル
- 2014年 瀬戸信用金庫中村支店
- 2015年 カトリック名古屋教区司教館
- 2016年 デンソー本社本館 役員室
- 2017年 朝霧カントリークラブ クラブハウス
- 2017年 名古屋プリンスホテルスカイタワー
- 2018年 豊田自動織機シャインズ三河湾
- 2019年 豊田自動織機シャインズ刈谷 中華
某迎賓館

■青年技術者のことば

「建築は“機能と体験を備えた”唯一のアート」という考えを学生の頃から常に持ち続けています。私は大学で建築設計を学んできました。建築設計を学んできたからこそ、インテリアがより直接的に自身の考えを表現できると判断しインテリア設計の職を選択しました。実務を通じて、この考えに一本分岐した考えが現れています。それは「建築は“多大な条件により生まれる”唯一のアート」です。条件を持った箱の最適な仕上げ方、条件としてすでに存在するモノたちが一番喜ぶ手法を考えることが最も大切なことだと実感しています。空箱には良くも悪くも必ず特徴が潜んでおり、設計者はその箱の潜在的な力を初期の段階で見つけられるかどうかが大切であると考えます。例えば名古屋プリンスホテルの場合の潜在力は、30Mの吹抜けと一体となった客室廊下でした。大面積のガラス面を、廊下側と吹抜け側の双方から成立するデザインとし、さらに表情が時間軸で変化するという空間を創りました。この箱の潜在的な力である圧倒的な気積と内外・表裏で成立させるべきガラス面を最大限に尊重したデザインとしています。

インテリアの印象は利用者の感情に強く影響すると信じています。記憶に残り、感動としての体験を与えられるような建築をこれからも社会に残し続けていきたいと思っています。表面的な美しさよりもさらに深い位置での思考、試み、設計を行い、潜在的な力を見逃さないよう創作活動に励む所存です。

■すいせん者

市川健二
㈱竹中工務店 名古屋支店 設計部長



名古屋プリンスホテル スカイタワー



某迎賓館



朝霧カントリークラブ クラブハウス